



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年10月27日

上場会社名 日立金属株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5486 URL <http://www.hitachi-metals.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 執行役会長 (氏名) 小西 和幸  
 問合せ先責任者 (役職名) コミュニケーション室長 (氏名) 釜谷 和嗣 TEL 03-5765-4075  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月11日 配当支払開始予定日 平成26年11月26日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	450,477	28.5	33,981	47.0	34,068	50.0	28,602	196.9
26年3月期第2四半期	350,463	27.7	23,124	36.4	22,707	48.5	9,635	△11.5

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 40,842百万円 (279.7%) 26年3月期第2四半期 10,755百万円 (59.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	66.89	—
26年3月期第2四半期	24.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	873,231	414,286	45.7	932.90
26年3月期	840,742	373,198	43.2	848.73

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 398,915百万円 26年3月期 362,944百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.00	—	10.00	17.00
27年3月期	—	10.00	—	—	—
27年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	990,000	22.5	77,000	29.3	72,500	19.1	46,000	16.7	107.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）日立金属MMCスーパーアロイ株式会社、除外 1社 （社名）

（注）詳細は、添付資料5ページ「（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	428,904,352株	26年3月期	428,904,352株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	1,298,020株	26年3月期	1,272,690株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	427,620,467株	26年3月期2Q	396,557,199株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想値と異なる場合があります。前記の予想に関する事項については、添付資料4ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
4. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では回復傾向が続いたものの、アジア地域においては、中国は景気拡大の速度が緩やかとなり、韓国は景気持ち直しの動きが緩やかとなりました。台湾は回復傾向が続きました。欧州は、全体として緩やかな持ち直し傾向が続くものの、政府債務問題や政情不安といったいわゆる地政学リスクによる懸念が残りました。一方、日本経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、第1四半期連結会計期間前半は個人消費が低調だったものの、海外需要の堅調な推移や国内生産の増加、これに伴う設備投資の増加等もあり、全体として堅調に推移しました。

当社グループの関連業界では、自動車は、国内は当第2四半期連結累計期間前半に、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動があったものの、生産持ち直しに転じました。当第2四半期連結累計期間後半には、受注残解消等による減産の動きが見られたものの、米国を中心とした海外需要等により、全体として堅調に推移しました。携帯電話は、スマートフォンの需要が海外を中心に好調に推移しました。家電やパソコンは、国内は個人消費の低迷による影響から総じて弱い動きとなりましたが、海外需要は堅調に推移しました。国内住宅建設の需要は減少しましたが、公共投資は堅調に推移しました。鉄鋼は、国内需要は産業機械向けが堅調に推移したものの、自動車販売や建設需要減少の影響もあり、生産は減少しました。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、平成25年7月1日付での日立電線株式会社との合併による影響もあり、前年同期に比べて売上高は、28.5%増の450,477百万円、営業利益は、10,857百万円増の33,981百万円、経常利益は、11,361百万円増の34,068百万円となりました。四半期純利益は、売上、利益の増加に加え、特別利益として事業譲渡益3,937百万円、固定資産売却益228百万円を計上したことから、前年同期比18,967百万円増の28,602百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んでおります。

なお、当社は、航空機・エネルギー材料事業の強化を目的とし、平成26年7月1日付で三菱マテリアル株式会社の完全子会社であるMMCスーパーアロイ株式会社（現 日立金属MMCスーパーアロイ株式会社）の発行済株式の51%に相当する株式を取得しました。これにより、同社は当社連結子会社として高級金属製品セグメントに属し、同社業績は当第2四半期連結会計期間から同セグメント業績に反映しております。

### 高級金属製品

当セグメントの売上高は、前年同期比9.0%増の127,488百万円となりました。また、営業利益は前年同期比2,522百万円増加し、14,799百万円となりました。

特殊鋼については、工具鋼は、国内向けは好調な設備投資需要等を背景に堅調に推移したことに加え、海外向け需要も総じて堅調に推移したことから、前年同期比で増加しました。電子材料は、ディスプレイ関連材料の需要が堅調に推移するとともに、半導体等パッケージ材料もスマートフォンやタブレット端末を中心とした需要が好調に推移し、増加しました。産業機器材料は、自動車関連材料については環境親和製品への需要が国内、海外ともに堅調に推移しましたが、エネルギー関連材料は、旺盛な需要動向が続いた前年同期比では減少しました。一方、航空機関連材料については、好調な需要動向が続いたことに加え、当第2四半期連結会計期間から日立金属MMCスーパーアロイ株式会社が連結子会社となったことに伴う業績反映もあり、増加しました。

ロールにおいては、各種ロールについては、海外向け需要が堅調に推移し増加しました。射出成形機用部品については、スマートフォンやタブレット端末を中心とした需要好調を背景に、国内向け、海外向けともに好調に推移し増加しました。

アモルファス金属材料においては、当第2四半期連結累計期間後半に主要市場である中国の需要が調整局面となり生産量が減少したものの、北米における需要が堅調に推移したことに加え、円安による効果もあり、全体として前年同期並みとなりました。

切削工具については、産業機械等の国内需要が好調に推移し、海外向けも輸出改善を背景に堅調に推移し増加しました。

## 磁性材料

当セグメントの売上高は、前年同期比6.1%増の68,394百万円となりました。また、営業利益は前年同期比3,706百万円増加し、7,533百万円となりました。

マグネットにおいては、希土類磁石は、ハイブリッド車や電動パワーステアリングなど自動車用電装部品の需要が好調に推移し、家電関連およびF A関連の需要も好調に推移したことから、前年同期比で増加しました。フェライト磁石は、国内、海外とも自動車用電装部品および家電用部品の需要が好調に推移し、増加しました。

軟質磁性材料およびその応用品については、フェライト応用品は太陽光発電用部品向けの需要が好調に推移し、フェライトコアも自動車用電装部品およびスマートフォン向けを中心に需要が堅調に推移しました。ファインメットは、汎用インバータ向けおよびエアコン向け等の需要が堅調に推移しました。

## 高級機能部品

当セグメントの売上高は、前年同期比3.3%増の94,152百万円となりました。また、営業利益は前年同期比56百万円減少し、5,946百万円となりました。

自動車用鋳物については、耐熱鋳造部品は、主要市場である欧州において需要持ち直しの兆しが見え始め、米国における需要も堅調に推移したことから、前年同期並みとなりました。高級ダクティル鋳鉄製品は、米国をはじめとする、海外の自動車における旺盛な需要が続く、国内も消費税率引き上げに伴う需要反動減の影響が限定的となり、全体として好調に推移したことから増加しました。アルミホイールは、国内は当社製品の搭載車種の一部に減産の動きがあったものの、米国の需要が堅調に推移し、前年同期比で増加しました。

配管機器については、各種管継手は、国内は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動による住宅着工戸数減少の影響があったものの、米国における需要が堅調に推移し、前年同期並みとなりました。ステンレスおよびプラスチック配管機器は、住宅着工戸数減少の影響はあったものの、ガス用製品に対する施工性・耐震性の高評価を受け需要が堅調に推移したことから、前年同期並みとなりました。

建築部材は、国内における民間設備投資、公共投資等による需要が堅調なもの、工事進行基準の適用範囲拡大等、一時的な増加要因があった前年同期と比較すると減少しました。

## 電線材料

当セグメントは、平成25年7月1日付けで日立電線株式会社と合併したことにより新設されました。当セグメントの業績は平成26年3月期第2四半期連結会計期間から当社グループ業績に反映しております。

当セグメントの売上高は、前年同期比104.1%増の161,545百万円となりました。また、営業利益は前年同期比5,463百万円増加し、9,849百万円となりました。

電線については、国内建設関連の需要が堅調に推移したことに加え、工作機械向けを中心とした需要が堅調に推移しました。また、注力分野である鉄道車両用電線や医療機器関連分野の医療用プローブケーブルも需要が好調に推移しました。

自動車部品においては、注力分野であるハイブリッド車用ハーネスや電動パーキングブレーキ用ハーネス、車載センサーなど電装部品を中心とした旺盛な需要が続きました。

情報デバイスについては、スマートフォンの普及による通信事業者の設備増強投資が旺盛に推移したことから、ネットワーク機器およびワイヤレスシステムの需要が好調に推移しました。

## その他

当セグメントの売上高は、前年同期比43.7%増の2,374百万円となりました。また、営業利益は前年同期比209百万円減少し、149百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動の結果得られた資金が財務活動および投資活動で使用した資金を上回ったことにより、前連結会計年度末に比べ7,374百万円増加し、102,917百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、47,852百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が37,894百万円、売上債権等の運転資金の減少が4,909百万円あったこと等によるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、11,996百万円となりました。これは主に事業譲渡による収入が9,678百万円、一方で有形固定資産の取得による支出が16,982百万円、事業譲受による支出が1,900百万円、無形固定資産の取得による支出が1,829百万円あったこと等によるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は、30,387百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出が25,507百万円、配当金の支払いが4,678百万円あったこと等によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績は、自動車および産業インフラ関連製品を中心として堅調に推移しました。今後の事業環境は、円安による原材料コストの上昇など不透明要因があるものの、需要は堅調に推移するものと見込んでおります。

また、平成26年8月19日公表の「Waupaca Foundry Holdings, Inc.の株式の取得(子会社化)に関するお知らせ」のとおり、当社は、北米市場において輸送機向け鉄鋳物事業を展開するWaupaca Foundry, Inc.（以下「Waupaca社」という。）の全株式を保有するWaupaca Foundry Holdings, Inc.の全株式取得および子会社化を、平成26年10月31日に行う予定です。

これに伴い、平成27年3月期より当社連結業績にWaupaca社業績を反映することから、平成26年4月24日公表の平成27年3月期連結業績予想を、下記のとおり修正いたします。Waupaca社の業績は、今回発表予想値において、クローズング後からの業績として売上高775億円、営業利益（無形資産およびのれん償却後）35億円を織り込んでおります。なお、同社の無形資産およびのれん償却前営業利益は、65億円を見込んでおります。

平成27年3月期 通期連結業績予想数値（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 910,000	百万円 68,000	百万円 65,000	百万円 42,000	円 銭 98.21
今回発表予想(B)	990,000	77,000	72,500	46,000	107.57
増減額(B)-(A)	+80,000	+9,000	+7,500	+4,000	
増減率(%)	8.8%	13.2%	11.5%	9.5%	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	807,952	59,536	60,898	39,417	95.65

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間において、平成26年7月1日付で三菱マテリアル株式会社の完全子会社であるMMCスーパーアロイ株式会社（現 日立金属MMCスーパーアロイ株式会社）の発行済株式の51%に相当する株式を取得したことにより、連結の範囲に含めております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合は、法定実効税率を使用しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,289	52,380
受取手形及び売掛金	210,503	207,390
商品及び製品	52,336	58,079
仕掛品	45,007	56,155
原材料及び貯蔵品	45,547	44,800
関係会社預け金	49,196	50,377
その他	60,581	64,172
貸倒引当金	△681	△710
流動資産合計	507,778	532,643
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	71,076	71,426
機械装置及び運搬具（純額）	87,475	89,870
土地	55,849	55,655
その他（純額）	20,266	26,149
有形固定資産合計	234,666	243,100
無形固定資産		
のれん	33,546	33,087
その他	12,579	13,415
無形固定資産合計	46,125	46,502
投資その他の資産		
投資有価証券	36,203	33,319
その他	16,660	18,255
貸倒引当金	△690	△588
投資その他の資産合計	52,173	50,986
固定資産合計	332,964	340,588
資産合計	840,742	873,231



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	167,436	168,445
短期借入金	42,949	51,417
1年内返済予定の長期借入金	39,635	14,995
未払法人税等	7,422	6,072
引当金	686	226
その他	59,914	63,515
流動負債合計	318,042	304,670
固定負債		
社債	35,000	35,000
転換社債型新株予約権付社債	4,495	4,495
長期借入金	53,879	59,237
その他の引当金	1,103	1,807
資産除去債務	194	403
退職給付に係る負債	47,939	45,811
その他	6,892	7,522
固定負債合計	149,502	154,275
負債合計	467,544	458,945
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,284	26,284
資本剰余金	115,692	115,693
利益剰余金	239,530	263,837
自己株式	△1,010	△1,054
株主資本合計	380,496	404,760
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,802	4,720
繰延ヘッジ損益	△876	2,169
為替換算調整勘定	△4,693	2,157
退職給付に係る調整累計額	△16,785	△14,891
その他の包括利益累計額合計	△17,552	△5,845
少数株主持分	10,254	15,371
純資産合計	373,198	414,286
負債純資産合計	840,742	873,231

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	350,463	450,477
売上原価	278,151	354,043
売上総利益	72,312	96,434
販売費及び一般管理費	49,188	62,453
営業利益	23,124	33,981
営業外収益		
受取利息	206	479
受取配当金	116	175
為替差益	427	966
有価証券売却益	6	50
持分法による投資利益	395	752
その他	1,574	3,099
営業外収益合計	2,724	5,521
営業外費用		
支払利息	1,005	1,300
その他	2,136	4,134
営業外費用合計	3,141	5,434
経常利益	22,707	34,068
特別利益		
事業譲渡益	—	3,937
固定資産売却益	—	228
関係会社株式売却益	129	—
持分変動利益	160	—
特許権売却益	100	—
特別利益合計	389	4,165
特別損失		
減損損失	—	193
事業構造改善費用	902	146
訴訟関連費用	1,000	—
外国付加価値税等	3,166	—
特別損失合計	5,068	339
税金等調整前四半期純利益	18,028	37,894
法人税等	8,092	9,027
少数株主損益調整前四半期純利益	9,936	28,867
少数株主利益	301	265
四半期純利益	9,635	28,602

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,936	28,867
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	989	△65
繰延ヘッジ損益	△10	2,083
為替換算調整勘定	1,575	7,443
退職給付に係る調整額	△1,723	1,891
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	623
その他の包括利益合計	819	11,975
四半期包括利益	10,755	40,842
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,687	40,293
少数株主に係る四半期包括利益	68	549

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	18,028	37,894
減価償却費	15,135	17,542
のれん及び負ののれん償却額	1,349	1,471
事業譲渡損益(△は益)	—	△3,937
減損損失	—	193
事業構造改善費用	902	146
訴訟関連費用	1,000	—
外国付加価値税等	3,166	—
受取利息及び受取配当金	△322	△654
支払利息	1,005	1,300
売上債権の増減額(△は増加)	2,113	14,107
たな卸資産の増減額(△は増加)	5,403	△6,150
仕入債務の増減額(△は減少)	8,837	△3,048
未払費用の増減額(△は減少)	2,262	△1,721
その他	△6,452	320
小計	52,426	57,463
事業構造改善費用の支払額	△2,100	△774
訴訟関連費用の支払額	△1,758	—
法人税等の支払額	△2,046	△8,837
法人税等の還付額	5,897	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	52,419	47,852
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,773	△16,982
有形固定資産の売却による収入	377	791
無形固定資産の取得による支出	△1,019	△1,829
事業譲渡による収入	—	9,678
事業譲受による支出	—	△1,900
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,652
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△264
利息及び配当金の受取額	315	724
その他	378	△562
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,722	△11,996
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△5,928	1,131
長期借入れによる収入	2,963	7
長期借入金の返済による支出	△5,063	△25,507
利息の支払額	△1,019	△1,297
自己株式の取得による支出	△92	△44
自己株式の売却による収入	11	1
配当金の支払額	△2,558	△4,277
少数株主への配当金の支払額	△158	△401
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,844	△30,387
現金及び現金同等物に係る換算差額	950	1,905
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	27,803	7,374
現金及び現金同等物の期首残高	34,102	95,543
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	21,317	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△1,466	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	81,756	102,917

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	高級金属 製品	磁性材料	高級機能 部品	電線材料	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	115,169	64,430	91,035	79,155	349,789	674	350,463	-	350,463
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,804	25	86	4	1,919	978	2,897	△2,897	-
計	116,973	64,455	91,121	79,159	351,708	1,652	353,360	△2,897	350,463
セグメント利益 (営業利益)	12,277	3,827	6,002	4,386	26,492	358	26,850	△3,726	23,124


## II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	高級金属 製品	磁性材料	高級機能 部品	電線材料	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	125,827	68,355	93,860	161,322	449,364	1,113	450,477	-	450,477
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,661	39	292	223	2,215	1,261	3,476	△3,476	-
計	127,488	68,394	94,152	161,545	451,579	2,374	453,953	△3,476	450,477
セグメント利益 (営業利益)	14,799	7,533	5,946	9,849	38,127	149	38,276	△4,295	33,981

## 2. 報告セグメントに属する主要な製品

報告セグメント	主要製品
高級金属製品	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ] (工具鋼、電子材料<ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料>、産業機器材料<自動車関連材料、航空機関連材料、エネルギー関連材料>、剃刃材および刃物材)、精密铸造品、各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品、アモルファス金属材料[Metglas <sup>®</sup> ]、切削工具
磁性材料	マグネット(希土類磁石[NEOMAX <sup>®</sup> ]・フェライト磁石・その他各種磁石およびその応用品)、軟質磁性材料(ソフトフェライト・ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット <sup>®</sup> ])およびその応用品、アモルファス金属材料[Metglas <sup>®</sup> ]応用品、情報通信機器用材料・部品、医療機器用材料・部品
高級機能部品	自動車用高級铸件(排気系耐熱铸造部品[ハーキュナイト <sup>®</sup> ]、高級ダクタイル铸铁製品[HNM <sup>®</sup> ]、アルミホイール[SCUBA <sup>®</sup> ]、その他アルミニウム部品、自動車用鍛造部品、設備配管機器 (  印各種管継手、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)、建築部材(内装システム、構造システム、屋上システム)、チェン(マテハンシステム)
電線材料	電線(電力・産業システム、電子・通信材料、電機材料、工業用ゴム製品)、自動車部品(電装部品、ブレーキホース)、情報デバイス(情報ネットワーク、ワイヤレスシステム、化合物半導体)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。